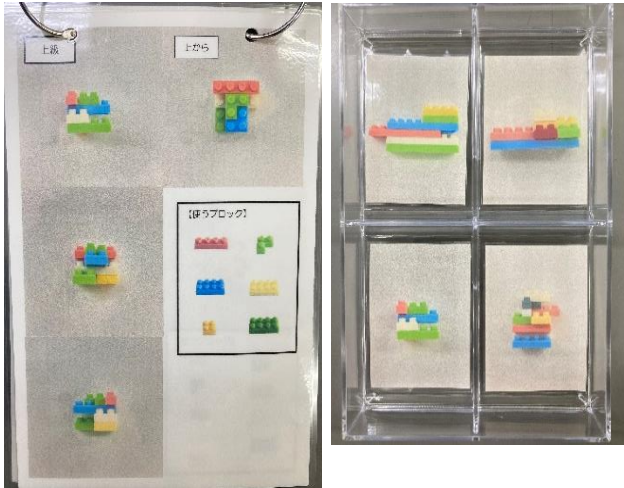


自作教具の活用事例

【作品名】 プチブロック組み立て	【学校名】 日立市立河原子中学校
【活用できる領域・教科等】 自立活動	【制作者名】 宗形 有香
【制作の意図】 手先が器用ではない生徒でも、小さなブロックを扱うことで、遊び感覚で楽しみながら手指の巧緻性を高めることができる。また、手本写真を見て真似して組み立てることで、「この形をつくるためにまずこうする」といった論理的思考力を高めることができる。	【使用方法】 難易度を選択し、指示書に提示された必要なブロックを探して、手本の形になるように組み立てる。初級は同じ幅のブロックを重ねるのみだが、中級以降は、90°の回転やブロックの列をずらす等、複雑な組み合わせが含まれる。完成したら教師と一緒に最終確認をして、ケースにしまう。
【制作上の工夫】 初級・中級・上級のように難易度を設けて、生徒が自分でレベルを選び、スモールステップでトレーニングできるようにした。 ラミネートした指示書に、「使うブロック」「横からみた完成形」「上から見た完成形」を実際のブロックの写真で提示し、複雑な形に対しても謎解き感覚で取り組めるようにした。	【見取り図】 〈組み立て方の指示書〉 〈ケース〉 
【写真】 	【使用効果と応用発展】 自己肯定感が低い生徒でも、作業内容とゴールを分かりやすく提示したことで、達成感を味わうことができた。論理的思考や空間認識が苦手な生徒でも、難易度を選択することで、自分のペースで取り組むことができた。継続してトレーニングを行うことで、手指の巧緻性や論理的思考力を含む様々なスキルの向上が期待できる。 また、活動の最後には「ワクワクタイム」として、自由にブロックで遊ぶ時間を取り入れた。集中する活動の後に、同じ教具でリラックスタイムに入ることもできる。 応用として、生徒が手本を作りお題を出し合う活動にすると、コミュニケーション能力を高める学習にもつながる。
【材料・材質・部品等】 プチブロック 完成写真（4枚） ケース 指示書（ラミネート） リング（2個）	